

最近の注目情報詳細 (2025 年 4 ～ 8 月)

1. 十倉氏、「道州」で地方創生を 500 万人が鍵

(2025 年 6 月 30 日 共同通信)

十倉雅和前経団連会長（74）は 30 日までに共同通信のインタビューに応じ、都道府県より広域な「道州」の枠組みで地方創生を目指すべきだと述べた。各都道府県が考える戦略は「観光や農業の振興といった金太郎あめ的な政策になりがちだ」と指摘。半導体やクリーンエネルギーなどの成長産業の集積には人口 500 万人以上の単位で考えるのが鍵だと訴えた。

十倉氏は昨年 12 月に発表した「新たな道州圏域構想」で、国内の人口減少を踏まえた広域連携を提言。人口 500 万人は地域の中心都市とその周辺都市を基準とした。交通網や高等教育、高度医療の整備も進めやすくなるとしている。

2. 将来的な「道州制」検討を提言…関経連、 関西広域連合に「見直し必要な時期きている」

(2025 年 7 月 18 日 読売新聞)

関西経済連合会は 17 日、近畿地方の府県などで行う関西広域連合に対し、将来的な「道州制」の検討や事務局の機能強化などを求める提言を発表した。

提言は、関西広域連合が策定を進めている今後 3 年間の基本方針「第 6 期広域計画」に向けて作成された。

道州制については、都道府県を存置した形での導入なども選択肢だとしており、新たな広域行政に関して柔軟な議論を行うよう要請している。また、事務局機能を巡っては、構成自治体からの出向だけに頼るのではなく、独自の職員採用や民間企業の人材活用などを進めるよう求めた。

関経連地方分権・広域行政委員会の銭高一善委員長（銭高組会長）は、記者会見で「インフラ（社会基盤）の老朽化や南海トラフ地震などの課題は、広域で対応する必要がある。関西広域連合は見直しが必要な時期がきている」と訴えた。

3. 橋下氏が維新・吉村代表に対し“勝手に”提言 「維新は与党と連立せよ！そして『副首都』実現へ」

(2025 年 7 月 21 日 FNN プライムオンライン)

20 日実施された参議院選挙の結果、自民党と公明党の与党は、参議院でも過半数を割り込むことになりましたが、石破総理大臣は続投を表明している。

21 日放送の関西テレビ「旬感 LIVE とれたてっ！」では、気になる今後の政局が話題となる中、日本維新の会の創設者である橋下徹氏が「維新が組んだらいい」と大胆な提案。

さらに維新の吉村代表が「大阪府知事も政治家もあと 2 年で辞めると決めている」と述べたうえで、維新が掲げる「副首都構想」を実現するため、政権入りして、吉村代表が知事と総務大臣を兼職すればいい」と持論を展開した。

■「吉村さんあと 2 年で知事も政治家やめる 連立入って知事が総務大臣兼職を」

橋下徹氏：僕は維新が連立組んだらいいと。吉村さんもうあと 2 年でやめるってことも決めてるから。知事も政治家も。だからもう衆議院（議員）の数を一緒に増やすなんてことを考えずに、いっぺん連立に入って。これ前代未聞ですよ。知事が大臣になる。総務大臣とかなれるんですよ、兼職で。

大臣と知事兼職できるんです。明文で禁止規定ないんですよ。そういうことだから、吉村さんは大阪を副首都にするってことを掲げてるから。（政権の）中に入って、その法案をやってくれるんだったら、『自公に全部賛成しますよ』っていうことを、打ち出して、もう吉村さんは後 2 年間を思う存分、僕国政でやってもらいたい。

（連立政権に）維新が行きゃいいと思う。維新だってこのまま行っただってもう、退潮傾向だから、もうこのあとの（”吉村代表が引退する”という）残り2年で」

青木源太キャスター：何か吉村さんに聞いているわけじゃないんですか？

橋下徹氏：全然。全然。でも衆議院（議員）の数をまた増やして、地道に増やしたって、それ何か得るものの何かありますかってことですよ。

■「自民にすり寄り維新に期待した人離れるのでは？」に「政治は政策実行が第一」

青木キャスター：そこで自民にすり寄ったら、維新に期待してた人が離れるというリスクはないですか？

橋下徹氏：その頃、吉村さん辞めるじゃないですか。だって今、衆議院の任期ってあと3年あるんですよ。吉村さん2年で辞めるんだから、もう維新の衆議院の人気なんか下がろうがなんだろうが、関係ないじゃないですか。

政治って政策を実行することが第一だから、議員の数を増やすことじゃないんですよ。吉村さんも社会保障の保険料下げるっていうことと、『副首都構想』って言ったんだったら、それを実行したらいい。（政権の）中に入って総務大臣やりゃいいんです。

副首都構想の話は、現実には知事をやっている吉村さん以外は維新のメンバーで誰もできません。官僚を動かして法律を作るってことになったら、もう吉村さんしかいないし、ここに大阪維新のメンバーみんな引っ付いて、『自・公・維』で、これで副首都構想。

■「大阪を副首都にするっていうことでどうですか？」と提案

青木キャスター：維新に票入れた人って自公の政治が駄目だと思って維新に期待してる人も多いと思うんですよ。そういった有権者に対しては、背信とまでは言わないけど、『そこで、自公にすり寄っちゃうの？』って残念に思う人はいると思うんです。

橋下徹氏：大阪を副首都にするっていうことでどうですか、大阪の人たちは『それだったらやってくれ』ってなりませんかね。僕はそういう感じがするんです。

■橋下氏「独自取材」で「自民中枢メンバーから”ウェルカム”」とも

さらに橋下氏は、すでに「自民党の中枢メンバーから、連立に入ってくれるならウェルカムだ」という意見が出ていると「独自取材」の結果を話した。

橋下徹氏：ですから、僕の独自取材ですが、自民党のもう中枢メンバーの複数人が維新が入ってくるんだったらウェルカムだと。もうそれはやると。

青木キャスター：組むとしたら野党の選択肢の中で、維新が『組みやすし』と思っている自民の中枢メンバーがいる？」

橋下徹氏：それは『組みやすし』じゃなくて、『副首都構想の法律どうなんですか？』って聞いたら、『それ、もし本気でやるんだったらいいよ』って言ってくれている自民党の中枢メンバーがいます。

自公政権に『No』突きつけて維新だとか言うんだけど、維新に限らず、みんな政策実行が政治家の使命だから、ちゃんと説明して、大阪が副首都だと…大阪万博やってこういうふうになったんだから、副首都になるって夢があるじゃないですか。

■「副首都構想」実現で大阪は「ニューヨークみたいな都市に」

大阪が副首都になることで、どのようなメリットがあるのか。

橋下徹氏：やっぱりニューヨークとワシントンのような感じ。東京は今、政治と経済両方とも牛耳ってるけども、やっぱり（大阪は）ニューヨークみたいな都市になりましょうよ、と。『うめきた』見ても、何かそれっぽくなってきたじゃないですか。

何か東京に災害があった場合にね、仮にあった場合にちゃんと大阪が担うというのも国のためにもなるし、吉村さんにそれね、説明してやってもらいたいな。

（関西テレビ「旬感LIVE とれたてっ！」2025年7月21日放送）